

環境報告

企業ステートメント	環境マネジメント	地球温暖化防止
クラレグループ行動規範	環境リスクの低減	環境会計
コンプライアンス・ハンドブック		
トップステートメント	環境データ	
サステナビリティマネジメント		
安全報告		

環境報告
環境マネジメント
地球温暖化防止
環境リスクの低減
環境会計
環境データ

社会性報告
コーポレート・ガバナンス
GRIスタンダード対照表 (内容索引)
クラレレポート / バックナンバー
ランドセルは海を越えて

環境マネジメント

クラレグループは素材・中間材メーカーとして、低炭素・低環境負荷社会の構築に必要な素材・中間材を世の中に提供し、また、それらをできるだけ低い環境負荷で製造することが使命と考えています。こうした考え方のもと、クラレグループはグローバルなものづくりを通じて、地球温暖化対策の推進、化学物質の排出抑制、資源の有効利用などの環境改善に継続して取り組んでいます。

<p>【ご注意】 会計年度変更に伴い、本レポートにおける環境関連データはグラフも含め次の通りとなっています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2013年度以前：4月-3月の12ヶ月実績 ・2014年度：4月-12月の9ヶ月実績+2014年1月-3月実績（または推定値）（2013年度と重複していません） ・2015年度以降：1月-12月の12ヶ月実績
-----------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

環境目標と実績

評価 ☆☆☆：計画を上回る ☆☆：ほぼ計画通り ☆：さらに取り組みが必要

	対象範囲	2018年度		2019年度目標	環境中期目標 (2020年度達成目標)	評価
		目標	実績			
地球温暖化防止	国内グループ	【GHG ^{※1} 排出量削減対策量】 13千トン以上 (対前年度比)	【GHG排出量削減対策量】 13千トン (対前年度比)	【GHG排出量削減対策量】 13千トン以上 (対前年度比)	【GHG排出原単位指数】 対前年比1%以上の向上	☆☆
		【GHG排出原単位指数】 対前年比1%以上の向上	【GHG排出原単位指数】 対前年比3.5%の減少	【GHG排出原単位指数】 対前年比1%以上の向上		☆
	海外関係会社	【エネルギー ^{※2} 原単位指数】 対前年比1%以上の向上	【エネルギー原単位指数】 対前年比3.6%の向上	【エネルギー原単位指数】 対前年比1%以上の向上	【エネルギー原単位指数】 対前年比1%以上の向上	☆☆☆

	対象範囲	2018年度		2019年度目標	環境中期目標 (2020年度達成目標)	評価
		目標	実績			
化学物質の排出管理	国内グループ	【日化協PRTR物質排出量】 2016年度実績値(957トン)未滿に管理	【日化協PRTR物質排出量】 1,004トン	【日化協PRTR物質排出量】 2016年度実績値(957トン)未滿に管理	【日化協PRTR物質排出量】 2016年度実績値(957トン)未滿に管理	☆
廃棄物の有効利用	国内グループ	【廃棄物の発生量削減対策量】 2016年度発生量の1%相当分(900トン)以上	【廃棄物の発生量削減対策量】 2,327トン	【廃棄物の発生量削減対策量】 2016年度発生量の1%相当分(900トン)以上	【廃棄物の発生量削減対策量】 2016年度発生量の1%相当分(900トン)以上	☆☆☆
		【埋立処分量】 2016年度実績値(251トン)未滿に管理	【埋立処分量】 330トン	【埋立処分量】 2016年度実績値(251トン)未滿に管理	【埋立処分量】 2016年度実績値(251トン)未滿に管理	☆
	海外関係会社	-	-	海外生産拠点各国の法的要求事項を遵守するとともに、廃棄物発生量の削減、定額管理を継続する。		-
水資源の有効利用	国内グループ	-	-	国内クラレグループの立地条件に鑑み、当面は数値目標の設定はしないが、できる限りの節水に努めながら水使用量の定額管理を継続する。		-
	海外関係会社	【水（海水除く）原単位指数】 対前年比1%以上の向上	【水（海水除く）原単位指数】 対前年比24.3%の向上	【水（海水除く）原単位指数】 対前年比1%以上の向上	【水（海水除く）原単位指数】 対前年比1%以上の向上	☆☆☆

※1) 温室効果ガス（Greenhouse Gas）

※2) 海外関係会社は電力・蒸気のほとんどを外部購入しています。温室効果ガス排出量は供給元の影響（排出係数）を大きく受けることから、海外関係会社の環境保全活動を適正に評価するため、供給元の影響を受けない「エネルギー使用量」で評価することとしています。

環境マネジメントシステム

■環境保全推進体制

クラレでは全社的な環境保全活動に取り組むため、CSR委員会の中に「環境保全ワーキングチーム（WT）」「温暖化対策WT」を設置し、地球温暖化対策、化学物質の排出管理、廃棄物の有効利用等に取り組んでいます。

■クラレグループ環境基本方針

クラレグループは「クラレグループ環境基本方針」を定め、環境保全活動に取り組んでおり、「クラレグループ環境活動マネジメント規則」に基づき、各事業所・関係会社と本社間のP（計画）D（実行）C（点検・評価）A（処置・改善）サイクルを回すことで継続的な改善を図っています。また、クラレグループ各事業所・関係会社において認証を取得しているISO14001については、各々のPDCAサイクルを回して環境保全活動を進めるとともに、2015年度版への移行を2018年5月（移行期限：2018

年9月)までに完了しました。

クラレグループ環境基本方針

クラレグループは、環境と調和した事業活動を通じて社会の持続的な発展に貢献し、次世代への責任を果たすため、以下の基本方針を定めています。

- ①事業活動を行うに当たり、環境に最大限配慮する。
- ②持続性のある環境改善活動を行う。
- ③環境改善に貢献する技術、商品の開発を行う。

■環境影響管理

クラレグループでは、2018年度に環境に重大な影響を及ぼす化学物質、および、廃棄物の漏洩事故はありませんでした。また、国内グループでは、公共用水域への排出について、法が定める排水基準を遵守しており、河川、地下水、海域等へ著しい影響を及ぼす事例はありませんでした。有害廃棄物の管理についても、ポリ塩化ビフェニル（PCB）含有廃棄物等の処理業者への搬出が該当しますが、「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」（PCB特措法）に従い適切に対応しています。

■環境中期計画の運用

クラレグループは、2018年を初年度とする3ヵ年の「環境中期計画」に取り組んでいます。評価指標として従来用いていた売上高を基準とした「環境効率※1」に代わり、生産現場での環境改善活動の成果が直接的に反映される生産量原単位指数※2を用いています。現環境中期計画は2020年までの運用としており、2021年以降の次期環境中期計画については、自社の事業活動から発生する環境負荷だけでなく、製品のライフサイクル全体にわたる環境影響を評価する取り組みをこれまで以上に進めるなど、新たな目標設定を含めた見直しを行います。なお地球温暖化防止に向けた取り組みについて、2020年以降の気候変動問題に関する国際的な枠組みである「パリ協定」があり、国内でも地球温暖化対策計画が策定されています。また、海洋プラスチック汚染などの地球環境問題についても産業界で議論が進められており、素材産業に携わる当社では「海洋プラスチック問題対応協議会（JaIME）」に加入し、取るべき対応に関する情報収集を進めています。クラレグループではこのような外部環境の変化にも対応しながら環境改善活動のPDCAサイクルをしっかりと廻すことで着実な環境改善に努めます。

目標値は「環境目標と実績」表の通りです。

※1) 環境効率 = 売上高 / 環境負荷

環境負荷：GHG排出量、化学物質排出量、廃棄物発生量等

製造工程でのGHG排出量等を削減した場合でも、事業活動が拡大すると排出量の絶対値は増加するため、削減努力が適正に評価されなくなります。そこで売上高と環境負荷を組み合わせた“いかに効率的に生産活動を行ったか”を評価する指標として「環境効率」を導入し、2017年度までこの環境効率を向上させていく活動を進めました。

※2) 生産量原単位指数 = 換算生産量 / 環境負荷

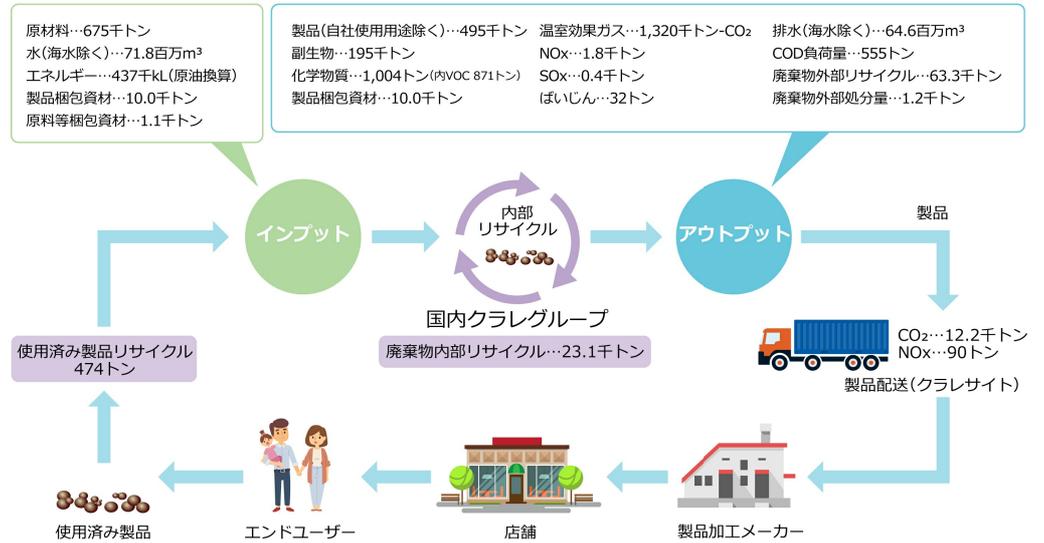
環境負荷：GHG排出量（国内）、エネルギー使用量（海外）等

環境負荷当たりの生産量。2016年度を100とした指数で表す。2014年頃から新たな事業の編入等により事業環境が大きく変化し、環境効率（=売上高/環境負荷）にも大きな影響が生じました。GHG削減努力等の結果を直接的に反映させるため、“いかに効率的に生産活動を行ったか”を評価する新たな指標として、換算生産量の「原単位指数」を導入し、事業環境の変化に応じて換算係数を見直すことで、現場の環境改善活動が反映されやすくなりました。2018年度からこの原単位指数を向上させていくことを目標として掲げています。

■事業活動のマテリアルフロー

クラレグループは事業活動の中で多くのエネルギー、化学物質および水資源などを使用しています。毎年投入した資源、排出物質を定量的に把握し、事業活動に伴う環境負荷を低減するために役立てています。

事業活動のマテリアルフロー(2018年度、国内グループ)



企業情報

会社概要
 ごあいさつ
 企業ステートメント
 役員
 組織図
 沿革
 主な受賞歴
 主要グループ拠点
 会社案内動画
 テレビ番組動画
 広告ギャラリー

製品情報

事業から探す
 製品名から探す
 キーワードから探す
 製品のてな

研究開発

基本方針
 技術と製品
 組織・体制
 歴史
 トピックス

サステナビリティ

企業ステートメント
 クラレグループ行動規範
 クラレグループ人権方針
 トップステートメント
 サステナビリティ長期ビジョン・サステナビリティ中期計画
 クラレグループのマテリアリティ
 Planet
 Product
 People
 ガバナンス
 GRIスタンダード対照表(内容索引)
 クラレレポート(統合報告書) / サステナビリティウェブサイト
 ランドセルは海を越えて
 イニシアティブ

投資家情報

経営方針
 IRニュース
 クラレって?
 業績・財務情報
 IRライブラリー
 株式情報
 IRカレンダー
 よくあるご質問